

信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果

プログラム名	夏期海外研修オーストラリア・カーティン大学 (Curtin University) 夏期海外単位認定プログラム	
学部・研究科名	医学部 保健学科	
プログラム実施期間	2017年8月4日～8月20日	
研修先(国・都市・施設名)	オーストラリア・パース・カーティン大学	
参加者数	： 20名	知の森からの支援者 ： 20名
プログラム概要	信州大学医学部保健学科全専攻、全学年(看護学、検査技術科学、作業療法学、理学療法学)学生が、同様の専攻を有するオーストラリア(パース)、カーティン大学で学べるように、平成12年から夏期休業中、短期留学(3週間)の機会を設けている。平成27年度より2週間のプログラムとした。 短期留学中は、医療コミュニケーション英語を中心とした英会話力の育成プログラムに加え、各専攻の講義・実習に学際的に参加し、オーストラリアの医療専門教育を体験している。また、各種病院、医療機関や福祉施設などの見学もコースワークに含まれている。 現地での滞在は、学生1名ずつのホームステイとなっている。このことにより現地での生活を体験しながら自ら英語を活用する機会を増やしている。また、ホストファミリー、カーティン大学学生やパース市民との交流や異文化体験により、今後の学生生活や将来のキャリア形成に向けてグローバルな視点を持つ機会となっている。	

実施状況・成果

◆主な研修先

Curtin University、The Niche (Independent Living Centre WA)、Regent's Garden Aged Care Facility、Fiona Stanley Hospital、Western Australian Institute of Sport、Hollywood Hospital、Caversham Wildlife Park、Rottnest Island

◆参加人数

看護学専攻：7名(1年生4名、3年生3名)、検査技術科学専攻：1名(1年生1名)、理学療法学専攻：8名(1年生5名、2年生3名)、作業療法学専攻：4名(3年生3名)

◆成果

Curtin Universityでは、他国からの留学生と受講する英語の授業(ELICOS)やオーストラリアの文化に関する講義に加えて、日本語・日本文化を学んでいる学生(Curtin Japanese Club)との交流があり、異文化理解・交流を大いに深めることができた。ホームステイの経験もちろんこれに貢献した。

日本では見ないような在宅生活支援の器具を扱うThe Niche、超高級高齢者施設でありOTアシスタントという日本にはない専門職が働くRegent's Garden Aged Care、西オーストラリア州で唯一心臓移植と出産が行える783床規模の病院で、食事トレイの回収などを全自動ロボットが病棟のいたるところで行っているFiona Stanley Hospitalなど、現地の文化適応的かつ最先端の医療福祉現場を見学することができ、国際的な視点を身につけることができた。

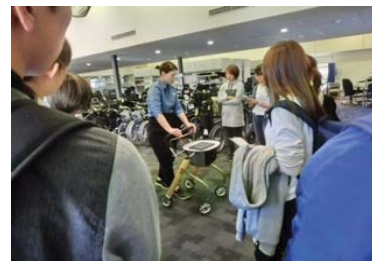
学生の声①-医学部 保健学科 学生

日本よりも理学療法が進んだオーストラリアで、最先端の施設や地域の中心となる病院を見学できたことはとても貴重な機会であった。日本と同じ部分を見ることによって大学で学んだことの再確認と、見たことのない技術、設備を見ることによって新しい知識の吸収との両方をできたことがよかった。生活全般では、不安な英語で生活する中でも色々なことに恐れず挑戦できたことは今までの自分と大きく変わったところであると思う。引率なしでの海外ということから、積極的に英語で会話を行ったこと、様々な体験をしたことすべてをこれからの自分の自信としていけると思う。

学生の声②-医学部 保健学科 学生

2週間という短い期間の中で、ホームステイをさせていただきながら、英語の授業・施設見学・観光とかなり濃い体験をさせていただきました。研修を終えるまでは、同行の先生がいないことや自分自身の英語力やコミュニケーション能力のなさにより不安がありましたが、この研修の中で、自分たちから積極的に動くことや、うまく話せなくてもホストファミリーや先生方に話しかけていくことにより、自信がつき成長できたと感じています。また日本とは異なる医療の仕組みや施設、文化に触れ、勉強になりましたし、それにより日本への興味も増えました。

The Niche(自立生活支援器具を扱う施設)見学



Curtin Japanese Clubのメンバーと一緒に

